



回復を願った。？ 独立回復宣言後の2ヶ月後、1990年7月初めに行われた歌と踊りの祭典では、ソ連時代に禁止されていた独立時代の国歌「神よ、ラトビアをたたえよ」を歌う権利の回復は、独立回復とまさに一致している。名称も「第20回全ラトビア歌の祭典・第10回踊りの祭典」となり、これは今回2013年の祭典の名称「第25回全ラトビア歌の祭典・第15回踊りの祭典」にも受けつがれている。？ この20数年で最も大きかったのは、他のバルト諸国とともにラトビアの歌と踊りの祭典がユネスコの世界無形文化遺産に登録されたことであろう。これにより、歌の祭典はバルト諸国が世界に誇れる伝統と文化であることが証明されたのである。？？？ ラトビア国外のラトビア人による歌と踊りの祭典？ 第二次大戦後、約10万人のラトビア人が西側に亡命したが、戦後で混乱していた時代でも異国の地でも、ラトビア人は歌を通じて自分たちのアイデンティティを確認していた。？ 1946年、英米仏軍が占領していたドイツでラトビア人による最初の「歌の日」が確認されている。これはニュルンベルグ近郊の町など7つの都市で行われた。その他にもイギリス（「歌の日」1949年から1986年）、オーストラリア（「ラトビア文化の日」1951年から1989年）、カナダ（「歌の祭典」1953年から）、アメリカ（「アメリカラトビア人全歌の祭典」1953年から）、ヨーロッパ（「ヨーロッパラトビア歌の祭典」1964年から1989年）で行われてきている。ラトビアのソ連からの独立後、歌の祭典は開かれなくなった国もある。最も大規模なのはアメリカのラトビア人による歌の祭典で、2012年に行われている。？ ラトビア国外の祭典も、ラトビア国内の祭典同様に様々なジャンルの芸術の展示会や演劇、踊り、音楽のコンサートが行われ、ソ連時代にはラトビアで演奏ができなかった作曲家の曲を演奏することができた。合唱指揮者には亡命したラトビア人が呼ばれた。亡命ラトビア人による合唱団や音楽アンサンブルは、独立後のラトビアの祭典に毎回招待される。？？？ 社会学調査「変動する社会における歌の祭典」？ 文化省の指令により2002年に行われたこの社会学調査では祭典の運営関係者や参加者、音楽学者、一般人を含めた1000人が対象のアンケート調査により、歌の祭典の実態を検証した調査報告書である。？ 祭典の参加経験者の割合は調査対象の1000人のうち、女性で37.1%、男性で19.5%であった。？ 典型的な参加者は、25歳以下の若い女性、ラトビア人、地方出身、高等教育を受けたか、現在学生であり、自分を中流階級の上に置いている。一方、典型的な観客は、40歳以上の女性、ラトビア人、高等教育を受け、同じく自分を中流階級の上に置いている。？ 歌の祭典の意味について多くの回答者は、大きな文化的伝統、ラトビア人らしさが最も発揮される場所、国際的なラトビアの位置づけに大きな意味を持っているもの、そして開催中自分がラトビア人であることを確認できる機会としている。また娯楽であると同時に、感情が高まるまたとない機会である。ラトビア人の民族的アイデンティティに加え、民族の社会的・政治的結束を養うため意味を持っていることは、関係者、マスメディア、一般人とも共通した意見である。？ 多民族国家のラトビアでは、歌の祭典への関心は民族別に異なる。その意味で祭典は多民族社会全体を結束させるよりも、ラトビア人を結束させる力を持つ。ラトビア人が集団で歌の祭典に関わるのに対し、非ラトビア人の祭典への関わり方は個人的である。しかし一方で同時に、半分近くの回答者は、民族の違いや経済的格差、世代を忘れさせる効果を祭典は持っているものと答えている。？ 資本主義社会では、自発的な文化活動には時間のなさが障害となっており、ラトビアも例外ではない。よって祭典への参加を念頭に入れた活動には、自身のモチベーションが必要である。？ 大衆文化の影響は、歌の祭典にも入り込んできている。例えばそれは多声よりも2声や1声が、アカペラよりも伴奏つきの曲が中心になりつつあること、演奏の簡素化、電子楽器の使用、舞台の音響に反映されており、ソコ歌手、ポップスの人気歌手や舞台演奏家が招待されることも珍しくない。これを支持しているのは祭典の運営者や芸術監督であり、逆に指揮者や音楽学者は本来の伝統的な形式を保守したいとしている。このように全体合唱の役割や人間の声自体の役割が小さくなっていると指摘される傾向が出てきている。またテクノロジーの発達による祭典のショー化も危惧されている。？ 祭典の芸術的側面について、まずプロの音楽家とアマチュアの参加者の意見の相違がある。それはレパートリーの難易度である。プロが毎回の祭典でレパートリーの難易度を上げる傾向があるのに対し、アマチュアはその難易度についていくのが大変であるとしている。またプロの中からも祭典のレパートリーの高い難易度により、アマチュア合唱団のレパートリーそのものが狭まっているという声もある。しかしアマチュアにとって祭典の芸術的側面はあくまで多くの側面の中のひとつに過ぎず、祭典は民族のお祭りであるとする意見が多い。？ レパートリーについては、その難易度と同時にその内容も問題である。観客が知っているような歌が、民謡のアレンジか、宗教曲か、現代作品かの点で常にバランスをとる必要があるのは誰もが認めている。？ 変わらないものと変わるもの？ 社会による権威と国家による援助で祭典が伝統を維持する力は増しており、祭典の存続とそのため伝統の維持に多くの人が肯定的である。それはまたレパートリーへの要望にも現れ、レパートリーの中心はやはり民謡であるべきというのは多くの人の願いである。？ 一方で、祭典はその場で動かないものではなく絶えず動いていくものである。市場経済の中で、文化への姿勢、人と人とのつながり、余暇の過ごし方が多様化しつつある。その中で人々が今後どのようにして時間をやりくりして音楽と関わっていくかが問題である。？ また参加者の多くが若い女性であるという、年齢と性別による不均衡をどのように是正していくのか？ さらに祭典にとって、参加者が「大都市」と「地方」から来ていることを認識することは重要である。大都市の人口は地方の3倍にもかかわらず、地方からの参加者や観客も多く、祭典でも重要な位置を占めている。しかし学校や公共交通機関などの合唱運動のために必要な地方のインフラをどのように整備するか？ 主に海外を中心に活動しCDを出す「エリート合唱団」が祭典に参加しないこと、ポップスしか聴けない若者など、祭典に対する価値観やそもそもの美的感覚が多様化していることが、祭典の今後を占う要素である。？？？ 学術論文などへの引用の際は、出典として本資料の明記をお願いします。？ 参考資料・URL? Dziesmu sv?tku maz? enciklop?dija. 「歌の祭典小百科事典」 Musica Baltica.2004.? www.dziesmusvetki.lv? ? ? ? ? ?